

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月29日

【評価実施概要】

事業所番号	870101524		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホームお母さんの家		
所在地	水戸市小吹町字水戸道向2297-17 (電話) 029-241-6610		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成13年9月14日	評価確定日	平成20年3月10日

【情報提供票より】(平成19年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤21人, 非常勤6人, 常勤換算7.38人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての	1～3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	実費・共有費 1,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	600 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	27名	男性 7名	女性 20名
要介護1	5	要介護2	8
要介護3	8	要介護4	4
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 83.7歳	最低 57歳	最高 101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	立川病院・小野クリニック・おおさわデンタルクリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは利用者の気持ちに沿うケアを職員全員が心がけ、朝早くからの散歩や家族とのオープンな関係を築き、家族の悩み事なども自由に話し合える雰囲気がある。
職員は夏祭りを通してボランティアや高校生との交流を深めるとともに、地域密着型サービスの理解を得られるよう努力している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で課題となった地域交流の推進や介護計画作成時の家族の関わりなどを、運営者・施設長・職員全員で話し合い、課題の改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を理解するとともに、全員で話し合い実務に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者の家族・民生委員・介護保険課職員・保険推進委員などにより、運営推進会議を開催し、ケアの問題点等を話し合っている。 出席できない委員には、会議録を送付している。 施設長が窓口となり、運営推進会議や介護相談員を受け入れるなど、市町村と連携している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 介護保険相談員や運営推進会議・日常の様子を報告する際に家族の意見・不満などを聞いて、ケア会議で検討している。 家族宛に毎月金銭出納帳のコピーを送り、家族から確認印をもらっている。 また、その際利用者の写真などを同封しホームでの暮らしぶりを報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームで夏祭りを行う際に、近所の方を招待するほか、高校生やフラダンスのボランティアなど、地域の方々との交流している。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームが地域の中で愛され・信頼され、利用者が自分らしさを大切に、安心して暮らせることを理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの基本理念の他に地域密着型サービスの理念を作成し、職員がいつも出入りする場所に掲げ全員で確認するとともに、地域にも理念の啓発を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで夏祭りを行う際に、近所の方を招待するほか、高校生やフラダンスのボランティアなど、地域の方々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解するとともに、全員で話し合い実務に活かしている。 前回の評価で課題となった地域交流の推進や介護計画作成時の家族の関わりなどを、運営者・施設長・職員全員で話し合い、課題の改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族・民生委員・介護保険課職員・保険推進委員などにより、運営推進会議を開催し、ケアの問題点等を話し合っている。 出席できない委員には、会議録を送付している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が窓口となり、運営推進会議や介護相談員を受け入れるなど、市町村と連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族宛に毎月金銭出納帳のコピーを送り、家族から確認印をもらっている。 また、その際利用者の写真などを同封しホームでの暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護保険相談員や運営推進会議・日常の様子を報告する際に家族の意見・不満などを聞いて、ケア会議で検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職する際は、職員をユニット間で調整するなど、できるだけ馴染みの職員から支援が受けられるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は3ユニットから職員が一人ずつ受講できるように調整するとともに、受講後は報告書を作成し、回覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者がグループホーム協議会の会長をしており、協議会の研修に積極的に参加し、交流している。 また、職員が他のホームを見学したり、情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用する前に、隣接するデイサービスを利用しながら、ホームの見学や利用者と触れ合う機会を設けるなど、馴染みながら利用できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、そこから職員が度々学び、お互いに支えあうような関係を構築している。 職員は漬物の漬け方・野菜の作り方など利用者から教わっている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を常に把握するよう努めるとともに、困難な場合は家族とも相談している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望、意向を聞き、毎月1回、運営者を交えケースカンファレンスで話し合っている。 利用者一人ひとりに対応した介護計画を作成するとともに、ケアに取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回のカンファレンスで見直しを行うとともに、本人・家族職員間で話し合い、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するデイホームやショート利用による交流を持ち、それぞれの施設を相互理解し合っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の要望を聞いて、希望する医療機関に受診できるようにしている。 また、訪問看護ステーションと連携を図り、夜間の緊急時等に適切な医療が受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応について、医師・家族・職員で話し合いを行っているが、対応方針等を決めるまでには至っていない。	○	ホームでの終末期に向けた取り組みについて、方針等を検討するとともに、同意書等の様式や対応マニュアルを作成することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の権利・義務などを重要事項に明示するとともに、事務室にも掲示するなど、職員に周知徹底を図っている。 書類や記録は、来訪者等の目に触れないよう管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者が望む事をできるだけ叶えられるよう配慮し、支援している。 また、利用者のペースで、納得できる生活を維持できるよう努力している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は食事の準備や後片付けなど、利用者のできる事を声かけなどにより、働きかけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が毎日入浴できる体制になっている。 また、年齢等の利用者の状態にあわせた入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りや買い物・裁縫・家事など、利用者の得意なことや好きなことができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブなど、利用者が外出する機会を多く持てるよう努力している。 また、歩行が困難な方にもシルバーカーを利用して外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置し、利用者等の出入りを確認できるとともに、日中は玄関を開放している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練などを年2回実施している。 また、運営推進会議で、地域の方にも協力を得られるよう働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量をチェックしている。 また、摂取量が不足している利用者には、代替食品で補っている。 食材提供会社からのレシピやカロリー計算により栄養のバランスを確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に観葉植物や季節の草花を置くとともに、壁に温かみのある絵を飾るなど、居心地よく生活できるような雰囲気づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への物品の持ち込みは自由になっており、利用者一人ひとりが使い慣れた物や生活に必要な新しい物を持ち込んでいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。